



善正寺だより

掲示板法話

人生の深さを共感する所に

無碍の一道が開かれてくる

先日、火屋勤行（火葬場での火葬直前のお勤め）の後、炉前ホールでの最後のお別れの際、亡き母を見送る息子さんが「お母さん、有難う、有難う、…」と何度も何度も呼びかけ、男泣きに泣かれた。大勢の参列者も思わず涙をぬぐわれた。亡きお母さんは97歳、息子さんは75歳。「何と心優しい息子さんだろうか！」と思わずお念仏がこぼれた。

70年前ご主人が戦死、家も空襲で焼け出されて以来、二人の幼児を抱えてご苦労された母親への感謝の思いが思わずこぼれ出たのであろう。晩年寝たきりになられた数年間、ずっと自宅介護されていたので、法要にお参りの時、私は必ずおばあさんの休んでおられるベッドに近づき、握手を交わした。つるつるしたお顔が輝いて「有難うございます。みんなが大勢集まってくれて嬉しいですわ」とおばあちゃん嬉しそうに言葉を聞いてからお勤めさせて頂いた。お勤めの間中もおばあさんがベッドの上で顔を仏壇の方に向けてにこにこしていらっしやる

〒:512-0902
三重県四日市市
小杉町1014
浄土真宗
本願寺派
善正寺
☎:0593-31-1670
☎:0593-32-0733



のが常であった。ご本山の750回大遠忌法要に夫婦でお参りになった直後、記念写真をお届けした日はおばあちゃんの誕生日。ベッドの上に手作りの飾りアーチがつるされて、孫やひ孫も一緒におばあさん九十何歳かの誕生パーティーたけなわの光景があった。おばあさんが「みんなに良くしてもらおうのは、仏さま（亡きご主人始めご先祖方）にお護りされているお蔭です」といつか言われた。それが真実を物語っているのではないか、と思われる。

南無阿弥陀仏をとなふれば
十方無量の諸仏は

百重千重圍繞して

よろこびまもりたまふなり

(現世利益和讃)

仏説阿彌陀經とともに唱えられるこの和讃は、先立って往かれた懐かしいご先祖方がお浄土からこの世に還相（げんそう）の菩薩となってお念仏のご縁を届けて下さっていることを喜ばれたものだとお味わいする。「人生は長さだけではない。幅もあ

れば深さもある。その長さは個人の一生。その幅（ひろ）さは人間の生涯。その深さは長さ、幅さの帰依となりたもう仏の命。こうして人生は、念仏者の無碍の一道となる」（金子大栄師）。若くして戦死されたお父さんは死んだのではない。お浄土で仏様となっていていつも見守っておられる。仏事とともに聴聞を重ねた家族の方々は、父親を偲びつつ、感謝の情を母親に向けて共に長寿を喜ばれた。長さ、幅さとともに、人生の深さを共感できるところに、苦勞をも乗り越える無碍の一道が開かれている。仏様の願いに目覚めれば、苦勞も妨げとならぬ麗しき人生に転換されることを学ばせて頂いた。

写真：鐘つき風景、本堂北側、南側工事で一新



☆行事ご案内☆

6月の門信徒会例会

6月21日(日)夜7時半

- ① 人口減少社会；各地の寺々の新たな試みは？
- ② 音楽法要の和讃に学ぶ；練習と和讃の心。



◇キッズサンガ 6/6 (土) 午後4時よりお経ゲーム。

鐘つきは毎夕5時、年中無休、お友達を誘って来てね

◇三重組コーラス 6/22 (月) 午後西勝寺様で練習、

善正寺ホームページ「三重 善正寺」で検索。1年分の寺報が閲覧。毎日更新のブログ「住職と坊守のつれづれ日記」が大好評。寺の日常を公開、開設6年10か月で17万5千訪問、一日平均100程、コメント、悩み相談、大歓迎！即返信します。

◇『一縁会テレホン法話』059・354・1454へ電話

※親鸞聖人750回大遠忌法要平成28年5月15日(日)午後ご法要までいよいよ11か月に迫り、ご協力よろしく！

※お稚児さん大募集！参加費5千円、詳細お申込みは寺まで生涯のよき思い出、仏縁です。お誘い合わせてご参加下さい！

◇三重組仏教講習会（講師 野瀬善隆師・滋賀県）

14日午後（明林寺様）、15日午前午後（光念寺様）、16日午前午後（蓮光寺様）

◇平成27年度善正寺門信徒会会長に服部信也氏、会計に川崎勉氏が選出されました。婦人部は館正子氏（留任）よろしく！

◇新納骨堂：後継者のない方、お墓でお困りの方ご相談下さい

坊守スケッチ

見えず聞こえず寄り添う夫婦に学ぶ

NHKテレビで『見えず聞こえずとも』夫婦二人の里山暮らし(5/3夜)というドキュメンタリー番組を見た。夫梅木好彦氏(68)妻久代さん(65)。結婚して14年経つ。

二人は自然豊かな丹後半島の里山に暮らす。妻は視覚と聴覚に障害を持つ。夫は若い頃から武者小路実篤やトルストイに憧れ、農業一筋の自給自足。

50歳の頃、障害者ボランティアをして、出会った女性が久代さんだった。その頃妻は深い海の底に突き落とされたような暗い気持ちで生きていた。出遇ってたちまち意気投合して結婚。

二人の会話は交互に手を握り合い、指の動きを読み取る『触手話』。点字を併用した特殊なパソコンを操作して、メールを交わすこともある。

妻は手の触覚で家事をこなす。夫は妻の手作り弁当を持ち、山奥の田畑で自然農法に励む。寡黙であるが誠実で人格高潔な夫。二重のハンディを背負いながらも、決して卑屈にならず逞しく明るい妻。妻の方が少し力ア天下に見えるのは夫の優しさなのか?

妻が障害を乗り越えられたきっかけはある一言だった。「心の眼で見なさい!」。心の眼で選んだ夫との出会いが、彼女をよりイキイキさせた。お互いの立場を思いやり、寄り添って生

きる二人の姿に、私は『夫婦の原点』を見て大いに反省させられた。

とかく現代は自分の至らなさは棚に上げて、相手の非ばかりを責める。「結婚なんて窮屈でお金がかかる。それに煩わしいだけ。自分の楽しみだけを追求するのが人生の目的さ」と吹聴するおひとり様世代もいる。

はたまた健康者は目先のモノを追い求め、見えるモノだけで価値を測る。目に見えないものこそ、生きる上で一番大切にしたものなのに...。この番組を見て「人間の本当の幸せって何だろう?」と深く考えさせられた。

ホットニュース

☆本堂屋根両側面の三角格子板、破風、懸魚工事が終了しました。5月末の『公開法座』にはお目見えします。

☆5月26日名古屋別院で東海教区門徒総代研修会があり、館十三生氏、館勤氏、服部則男氏が参加されました。

☆1年後の親鸞聖人750回大遠忌法要の駒札を、門前に設置しました。ご法要に一步近づいたような緊張感を感じました。

☆各ご門徒様宅の塀に、稚児募集のポスター掲示のご協力をよろしくお願ひ申し上げます。

☆ご法要立華ご奉仕を伊崎栄一氏、伊崎頭次氏、館久夫氏にお願いしました。

☆若院夫婦の『育自な毎日』その8

長男が幼稚園に通いだしてから1ヶ月半程経ちました。入園式後、意気揚々と通う筈でしたが、毎朝大泣きして親を困らせました。何とか登園しても、帰宅早々「明日も幼稚園あるの?」と翌日を心配してまた泣きべそ。

「母ちゃんいないから、僕寂しいの」と可愛いことを言ってくれますが、心を鬼にしてバスを見送りました。

ほどなく長男が風邪をひきました。4月は気候が揃わず、外で送迎バスを待っていた私も風邪をひき発熱。その都度園へ欠席の電話をするのが日課。

園に慣れるどころか自宅の居心地の良さを確かめているようでした。

やがて長女、夫、両親にもうつり、一家で風邪旋風の真つただ中。その所為で小児科の常連さんになりました。

大型連休明けには子供達の風邪はほぼ治り、初めて長男の口から「幼稚園、楽しい!」という言葉が出ました。お遊戯やご挨拶の歌などを得意気に披露し、お友だちや先生の話もしてくるようになりました。

長男はようやく新しい環境に自分の居場所を見つけたようです。

病氣は医者や薬の手助けで治せます。しかし子供自身が乗り越えていかなければならない問題は、親はただ見守るしかありません。これからも子供が経験するあらゆる困難に、手助けしたり見守ったりしながら、親子で共に成長したいと思えます。(潤爾&由佳)

お悔やみ申し上げます

★服部康軌様(4月27日亡、66歳。愛知県)

★服部静子様(5月15日亡、97歳。四日市市)

カンパありがとうございます

富田和代様、匿名様よりお志、切手等を頂戴しました。

お稚児さん大募集!

平成28年5月15日親鸞聖人750回法要(1年後)の御稚児さん大募集中!参加費5千円。まだ先のことか、出足がイマイチです。ご協力下さい。



親鸞聖人750回大遠忌法要
駒札、山門前に立ちました。

☆ 編集子より ☆

「善正寺だより」第258号をお届けします。◇「大阪都構想」否決。強烈な個性で上から叫び続けても、必要性も中身も充分伝わらなかつた。◇大言壮語は響かない。琴線に触れる言葉が求められる。大遠忌法要迄一年弱。「生死の苦海」を乗り越える道を歩みたい。

来年五月十五日の親鸞聖人七五〇回大遠忌法要まで一年を切りました。私の中ではカウントダウンが始まっています。(お稚児さんが集まらない。全体的に高齢化で重い腰が上がるのは当然。昔のような盛大にはできませんが、一つの区切りとして精一杯勤めよう)と焦る気持と使命感で揺れ動いています。

先日^日やるのひとりごと区という絵本を読みました。「一匹の山サルが一度海を見たいと出かけた。いくつもの山を越え海に出て高い松の枝に登りました。海はええなあ、風は吹き、波は打ち、魚もいる」と独り言。すると石の陰で「うん」と小さな声で返事。相手を男でした。サルはうろたえ、言うてカニを叩きつぶしました。再び独り言も言っても誰も返事をしてくれません。急に寂しくなるとつぶしたカニを田子にして石の上に座らせました。もう一度独り言を言う。小さな声で田子のカニが返事をしてくれた。ような気がしました。サルは途端に嬉しくなるとまた来るから返事してなと約束して山へ帰りました。皆さんはこの童話にどんな感想をお持ちですか。私は仲間にインジスられたサルが弱い小さなカニから相槌の勇氣をもらったと感じました。現代は同じ家、同じ地域に住みながら声掛け合ふことなく心通い合わす相槌もない寂しい時代です。私達真宗門徒と仏様との相槌は、南無阿彌陀仏し、仏前で亡き人のお念仏の相槌を受け取りながら心通わせよう。来年の大遠忌法要が真宗門徒の固い絆の確認になることを願って止みません。引且公開法座お誘い合わせてお参り下さいませ。 合掌

平成二十七年 六月

善正寺坊守 拝